

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

全問題が解答の導出過程を示す問題で構成されている。

グラフを描かせる問題が出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式 (記述・描図)	力学 (浮力を受ける物体の運動)	物理	物体にはたらく浮力の大きさを正しくとらえ, 等加速度直線運動と単振動の運動方程式をそれぞれ立式する必要がある。	標準
II	問形式 (記述・論述)	電磁気 (自由電子の運動・導体棒に生じる誘導起電力)	物理	問 1~問 3 は導体中を運動する自由電子と導体を流れる電流との関係を扱った基本問題。 問 4~問 5 は導体棒に生じる誘導起電力に関する問題。	標準
III	問形式 (記述)	波動 (ドップラー効果・閉管の共鳴)	物理	問 1~問 4 はドップラー効果に関する基本問題。 問 5 では, 共鳴箱内に節が 1 個の定常波が生じている場合について考える。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を中心に基本事項を正しく理解しておくこと。また簡潔で正確な文章により、物理現象や法則を説明できるように日頃から練習しておくこと。